

視聴覚教育

NO 156

発行日
元. 10. 11発行
岡崎市AVL編集
広報委員会

創意と工夫の努力

アナライザー・パソコン委員長

太田泰永

三年前、文部省の海外派遣でニュージーランドとオーストラリアの小中学校、高校、大学の十二校を訪問する機会を得た。

どの学校も、その学校としての特徴が明確であり、教員一人ひとりが自信に満ちていることに感心したものである。



日本語教室を設け、日本の絵・写真・土産物など日本のもので埋めつくした教室を見たり、日本の団地を題材にして子どもが自分の調べてきたことを発表する社会科の授業を見たりして、ニュージーランドやオーストラリアの日本に対する関心の高さとその積極的な取り組みに改めて感心した。

そして、各学校とも教育機器の利用について非常に熱

心であり、思ったより進んでいるパソコンの導入の様子とともに興味深く参観することができた。

オーストラリアの田舎の全校四十六名のロックウッドサウス小学校では、教育委員会から週一日しか借用できないVTR一式を使って、二・三年合同の国語の授業を参観した。女先生の朗読に合わせ役を演じる子どもを、もう一人の女先生がビデオカメラで撮り、見せるという授業だった。よく準備されている見事な授業であった。

一年生の算数の授業では、教室の片隅でひとりで真剣にパソコンを操作しているのが情緒障害児であると説明されびっくりした。

四・五・六年の教室では、たて割りのグループごとにつくった絵物語を、母親たちがその場でタイプに打って本にするという授業が賑やかに行われていた。

総体的に、限られた施設、設備、機器のなかでよく努力し、創意工夫を加えているといえる。

帰国後、わが身を振り返ったとき、同じようなことが云えるのかどうか反省することしきりである。

比較的恵まれているといえる諸条件の中で、見直さなければならぬ点が多々あることを認めざるを得ない。

視聴覚教育についても例外ではないと思う。全国に誇る伝統と実績に安閑とすることなく、いまこれでよいかというチェックを常にしていきたいものである。

わがパソコン委員会もいよいよ緒につき実質的な活動を展開することになった。まずは、パソコン教育が一部の先生や生徒だけのものにならないように努力していきたい。ご協力をお願いします。

視聴覚ライブラリー

研究協議会報告

八月二十二・三の両日、岡崎市民会館で「平成元年度東海北陸地区視聴覚ライブラリー研究協議会」が開催された。

今回は、生涯学習の本格的な導入をみすえ、生涯学習と視聴覚ライブラリー・センター（以後は略してライブラリー）の係わりあい協議され注目を集めた。

生涯学習を進めていくには、情報の収集・処理するの様々なメディアが必要になってくる。この共通理解の上で、それを生活（学習）の中へ取り入れていく過程でライブラリーは地域住民とどの様にかかわっていくかが話し合いの焦点となった。

■実践報告（提案）

一 **メディアの特性を把握して、特性をいかした活用**

- ・メディアにはそれぞれ長所短所があり、長所をいかした活用が必要
- ・コンピュータを取り入れ機材の管理や業務のスピードアップ

二 **住民の学習要求を支援できるライブラリー**

- ・メディアの活用方法の指導や相談ができる場の開設
- ・住民の活動の場としてのライブラリーの解放

■今後の課題

一 **ライブラリーの施設・設備の充実**

二 **ライブラリーの施設・設備の利用法の工夫**

今後、さらに地域との結び付きが深まり、地域の拠点としての役割が重要になってくることが確認された。

両教諭が県教研へ

— 視聴覚部会 —

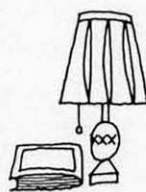
去る十九日、北中学校で開催された第39次教育研究集会岡崎大会視聴覚部会は、四十名近い会員が日頃の実践を持ちより、活発な討論が展開された。

本年度はパソコンを活用した授業の実践がさらに増え、パソコン利用の関心の高さを示した。また、ポータブル式（持ち運び式）教材提示機を授業に取り入れ効果を高めたいレポートも多く見られた。

助言者の竹橋義明先生（県教育センター）より「新しい機器はソフトの開発を含め、更に活用の幅を広げる。」

「従来からの機器は、特質を考え、活用の見直しを図ってほしい。」との助言をいただいた。

県教研へは八田（連尺小）羽根渕（美川中）の両教諭が選ばれた。活躍を期待したい。



ライブラリーだより

音編集装置が完成!



音声関係の新しい機器が整備されました。ミキサーと組み合わせて、CDやレコード、またテープ、マイクなどを、他のテープとミックスしたりBGMをバックにナレーションを入れることも出来ます。行事などの効果音づくりに最適です。多くの活用をお願いします。

新着16ミリ映画「父と子の休日」一般父兄向30分
父と娘が休日に出合った温かい心のふれあい作品